桐生市立図書館の所蔵資料から

第４回 「桐生新町絵図」と長沢紀卿（ききょう）

本町一・二丁目は、重要伝統的建造物群保存地区に指定された、歴史的に由緒ある町並みです。桐生天満宮を起点に、江戸時代末から昭和までの各時代の建物が混在し、懐かしさを感じさせる風景です。

その本町一・二丁目から、現在の本町通りの東西に展開する六丁目までと、二丁目から西の山手に抜ける横山町は、徳川家康が関東に入った天正19（1591）年に、代官頭大久保長安（ながやす）の手代、大野八右衛門（はちえもん）の指揮の下、天満宮から本町六丁目の浄運寺まで直線的な道を開き、その東西に人家を集める形で町割り（区画）を完成させたと伝わります。

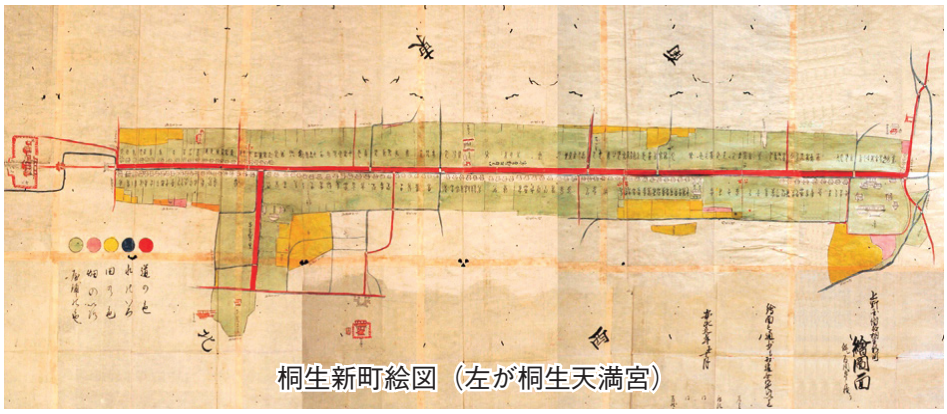
今回は往時の町の様子がうかがい知れる、江戸時代中期の安永９（1780）年に作られた「桐生新町絵図」を紹介します。

この絵図には、北に天満宮、南に浄運寺が描かれ、その間に本町通りをはじめ、現在も残る筋（横道）や、かつて人々の生活を支えた用水、さらには道沿いの家持ち各戸の人名が書き込まれており、その町割りが変わらず今日まで残されていることに驚かされます。

また、絵図の裏面端には「長沢純」とあり、これが桐生新町でも有数の商家で萬屋（よろずや）の屋号で知られた長沢紀卿家の三代目となる長沢紀卿（仁右衛門（にえもん）／長純）の所有物だったことがわかります。そこには「上野国（こうづけのくに）山田郡桐生新町絵図面控下書」とあり、前年の安永８年に出羽松山藩の酒井家が桐生新町の領主となるにあたって、新町の町役人に対して絵図の作成、提出を命じ、その控えとして作られたものと考えられます。

紀卿は当代随一の儒学者や書家から漢学や書の教えを受け、一流の教養を身に付けていただけでなく、後にはその財力を惜しみなく投じて、天満宮境内に私設図書館「潺湲舎（せんかんしゃ）」を設け、遠方の人々へも書物を貸し出すほどの文化人でもありました。興味深いことに、この絵図を原本としたことが明らかな写しが、他の町役人の家にも伝来しています。後世の町役人が役用を務める上で、この絵図の写しを手持ちとして役立てていたことがわかります。

問い合わせは、図書館（☎47434１）へ。



桐生新町絵図（左が桐生天満宮）

▼「桐生新町絵図」展示

期間＝９月１日（金）～24日（日）※月曜日、祝日は休館です。

場所＝図書館１階

今月の表紙

８月４日（金）から６日（日）まで「第54回桐生八木節まつり」が開催されました。

４年ぶりに鉾（ほこ）の曳（ひ）き違いを行った桐生祇園祭（ぎおんまつり）をはじめ、ジャンボパレード、ダンス八木節など、市内の各会場は、多くの人でにぎわいました。

人口と世帯

（７月31日現在）

人口	114,312人	（－36人）
男	55,062人	（－9人）
女	59,250人	（－27人）
世帯	49,966世帯	（+21世帯）

（ ）内は前月比

今月の納税

固定資産税・都市計画税…第3期
国民健康保険税…第3期
10月2日（月）が納期限です

コンビニエンスストアや銀行などのペイジー対応ＡＴＭからも納付可能です。口座振替を利用している人は、預貯金残高の御確認をお願いします。

広告

■発行／桐生市役所　〒376-8501　桐生市織姫町1-1
☎0277-46-1111　ファクシミリ0277-43-1001
広報きりゅう９月号 No. 1494
■編集／総合政策部広報課（☎内線505）
■ホームページ http://www.city.kiryu.lg.jp